

令和6年度京都市立学校教員採用選考試験 大学・大学院推薦制度実施要項

京 都 市 教 育 委 員 会

この要項は、大学・大学院及び教職大学院（短期大学を含む。以下、「大学等」という。）から京都市の教員として優れた実践力を発揮することが期待できる者を学長等（学部長以上の職）が推薦し、令和6年度京都市立学校教員採用選考試験において、第1次試験を免除する者を決定するために定めるものとする。

1 推薦の対象となる校種・教科

小学校、中学校（数学・理科・技術・家庭・英語）、総合支援学校

※ 本要項における「総合支援学校」とは「学校教育法上の特別支援学校に該当する学校」を指す。

＜昨年度からの主な変更点＞

小学校教諭志願者における中学校または高等学校の普通免許状取得・取得見込者（理科・英語）を推薦する場合は、小学校の推薦人数を基本人数から加算できることとします。

【変更理由】

令和6年度京都市立学校教員採用選考試験において、小学校英語教育推進コース、小学校理科教育推進コースを廃止し、小学校教諭志願者のうち、出願時点において、「理科」「英語」のいずれかの中学校または高等学校の普通免許状取得・取得見込者に第1次試験において加点する制度を新設したため。

2 推薦の対象となる大学等

（1）小学校

小学校教諭免許状取得のための課程認定を受けている大学等。

（2）中学校（数学・理科・技術・家庭・英語）

中学校（上記の5教科）教諭免許状取得のための課程認定を受けている大学等。

（3）総合支援学校

特別支援学校教諭免許状（知的・肢体不自由・病弱の3領域のいずれか）取得のための課程認定を受けている大学等。

（4）上記の校種・教科の免許状取得のための課程認定を受けていない大学等の取扱い

上記の校種・教科の免許状取得のための課程認定を受けていない大学についても、隣接する校種の免許状取得のための課程認定を受けており、推薦を行う校種・教科の免許状取得のために他大学等と連携や協定を行うなどして、大学等として当該校種・教科の免許状取得のための取組を実施し、かつ学生の学業・諸活動の実績とともに当該校種・教科の教員としての資質・適性等を評価できると認められる際には、推薦の対象となる大学等として取り扱う。

3 推薦基準

以下の（1）から（6）までのすべての要件を満たす者のうち、学長等が推薦する者（以下、「被推薦者」という。）。

- （1）京都市教育委員会が求める教員像にふさわしい資質能力を有し、京都市立学校教員を第一志望とする者。
- （2）令和6年3月において上記の免許状取得のために対象となる大学等に在籍している、又は卒業（修了）見込みの者。ただし、令和5年3月時点で当該大学等に1年以上在籍している場合に限る。
- （3）学業成績優秀であるとともに、部活動やボランティア活動等の実績が顕著である等、大学等における諸活動の実績が高く評価され、教員として優れた実践力を発揮することが期待できる者。

- (4) 昭和39年4月2日以降に出生した者。
- (5) 推薦の対象となる校種・教科にかかる普通免許状を有する者又は令和6年4月1日までに取得見込みである者。
- なお、総合支援学校については、特別支援学校教諭免許状（知的・肢体不自由・病弱の3領域のいずれか）とともに、小学校、中学校又は高等学校の普通免許状を有する者又は令和6年4月1日までに取得見込みである者。
- (6) 地方公務員法第16条及び学校教育法第9条の欠格条項に該当しない者。

4 推薦の人数

- (1) 教職大学院からの推薦可能人数については以下のとおりとする。

① 京都連合教職大学院の基本推薦人数

小学校、中学校、総合支援学校・・・校種を問わず、5名以内

② 教職大学院の基本推薦人数

小学校、中学校、総合支援学校・・・校種を問わず、2名以内

※ ①・②とも、以下の者を推薦するときは、それぞれ1名を加算できる。

- ア 小学校教諭志願者における中学校または高等学校の普通免許状取得・取得見込者（理科・英語）の推薦を行うとき（理科・英語各1名）。
- イ 中学校・総合支援学校への推薦を行うとき。
- ウ 身体障害者手帳、精神障害者保健福祉手帳又は療育手帳（以下「障害者手帳等」という。）の交付を受けている者を推薦するとき。

推薦人数一覧表

（単位：人）

	基本人数	小志願者で理科の中・高普通免許状取得者等	小志願者で英語の中・高普通免許状取得者等	中学校・総合支援学校	障害者手帳等	推薦人数合計
京都連合教職大学院	5	+1	+1	+1	+1	5～9
教職大学院	2	+1	+1	+1	+1	2～6

- (2) 教職大学院を除く大学等からの推薦可能人数（大学・大学院、短期大学を合わせた推薦可能総人数）について、以下のとおりとする。

① 小学校

- ア 各大学等の基本推薦人数は1名とする。
- イ 前年度の京都市立学校教員採用選考試験において小学校教諭の区分で5名を超える在学が合格し、採用された大学等については1名を加算できる。
- なお、合格者数には以下ウによる合格者数を含む。
- ウ 前年度の京都市立学校教員採用選考試験における大学・大学院推薦制度において推薦された者のうち、小学校教諭の区分で3名以上が合格し、採用された大学等については、1名を加算できる。
- エ 中学校または高等学校の普通免許状取得・取得見込者（理科・英語）の推薦を行うときは、小学校の推薦人数に2名を加算できる（理科・英語各2名）。

② 中学校

各大学等の基本推薦人数は、数学・理科・英語は各1名、技術・家庭は各2名以内とする。

③ 総合支援学校

各大学等の基本推薦人数は4名以内とする。

④ 各校種共通事項

ア 京都市教育委員会が実施する「学生ボランティア」学校サポート事業の協定締結大学については、各校種の推薦人数にそれぞれ1名を加算できる。

イ 障害者手帳等の交付を受けている者を推薦する大学等については、各校種の推薦人数にそれぞれ1名を加算できる。

(注) 上記のいずれにおいても、一人の被推薦者を複数の校種・教科に推薦することはできない。

推薦人数一覧表

(単位:人)

		基本 人数	採用 者数 実績 (小学校のみ)	大学 推薦 実績 (小学校のみ)	小志願者で 理科の 中・高 普通免許状 取得者等	小志願者で 英語の 中・高 普通免許状 取得者等	学生 ボラン ティア	障害者 手帳等	推薦 人数 合計
上記(2)の対応項目			①イ	①ウ	①エ	①エ	④ア	④イ	
教職大学院 以外の大学等	小学校	1	+1	+1	+2	+2	+1	+1	1~9
	中学校・数学	1	—	—	—	—	+1	+1	7~9
	中学校・理科	1							
	中学校・技術	2							
	中学校・家庭	2							
	中学校・英語	1							
	総合支援学校	4	—	—	—	—	+1	+1	4~6

※上記のうち、大学等で免許状取得のための課程認定を受けている校種・教科のみ推薦可能です。

5 推薦申込手続等

(1) 提出書類・提出方法 (④、⑤は該当大学等のみ提出)

	提出書類	提出方法
被推薦者	志願書等 (※)	被推薦者本人が電子申請 (インターネット) により直接教職員人事課へ提出。
	レポート (③)	自筆のうえ、大学等へ提出。
大学等	① 学長等推薦書	・封筒表面に「 大学等推薦受験申込書 在中」と朱書きのうえ、 <u>簡易書留</u> により提出すること。 ・取りまとめを担当する部課名及び担当者名・連絡先電話番号、メールアドレスを明記したもの (A4の用紙) を同封すること。
	② 成績証明書	
	③ レポート (被推薦者が自筆したもの)	
	④ 障害者手帳等の写し	
	⑤ 学生の資質・適性等の把握方法を示した資料	

【留意事項】

※ **志願書等については、被推薦者本人が、電子申請 (インターネット) により直接教職員人事課へ提出することとしています** (手続きの詳細については、京都市教育委員会ホームページに掲載)。

大学等を介さず、被推薦者本人が個別に電子提出することから、必要に応じて、事前に被推薦者本人が作成した志願書等の内容確認をお願いいたします。

- ① 学長等推薦書（別紙「様式1」を使用すること。）
- ② 成績証明書（大学等所定の様式を使用すること。）
- ③ レポート（別紙「様式2」を使用し、被推薦者が自筆すること。A4、片面とする。）
- ④ 障害者手帳等の写し（氏名、生年月日、障害の種別及び等級が確認できる頁の写し。「4 推薦の人数」の（1）※ウまたは（2）④イの取扱いを希望する大学等のみ提出。）
- ⑤ 推薦を行う校種・教科の免許状取得のための大学としての取組及び当該校種・教科の教師としての学生の資質・適性等の把握方法を示した資料（様式自由。「2 推薦の対象となる大学等」の（4）の取扱いを希望する大学等のみ提出。）。

《レポート課題》 以下の①及び②について、述べなさい

- ① 京都市立学校の教員を志した動機や理由について（京都市の教育施策を一つあげ、あなたの考えとともに、希望校種・教科を志願した理由を記述しなさい。）。
- ② 現在の教育課題を挙げ、その課題に対応するために、あなたはどのような教員を目指すべきと考えるか、「一人一人の子どもを徹底的に大切にする」本市教育の理念を踏まえ、具体的に論述しなさい。

※ レポート課題①と②について、それぞれ1000文字程度で記述すること。

（2）提出期限

令和5年5月8日（月）消印有効

（3）その他

被推薦者は、志願書の出願区分に、推薦を受けた校種・教科を入力すること。

また、推薦を受けた校種・教科以外の校種・教科の併願を希望することができるが、第1次試験の免除を認められた被推薦者については、推薦を受けた校種・教科のみを受験することができる。

6 第1次試験免除者の決定等

（1）提出書類を審査し、第1次試験免除者を決定する。

（2）第1次試験免除者の選考結果通知

6月中旬までに、大学等へ通知する（同封する被推薦者への結果通知を用い、大学等から本人へ結果の伝達を行うものとする。）。

（3）第1次試験の免除を認められた被推薦者

第1次試験の免除を認められた被推薦者には、第2次試験の「受験票」がダウンロード可能となったことを通知する電子メールを6月20日（火）までに送付する。

（4）第1次試験の免除が認められなかった被推薦者

第1次試験の免除が認められなかった被推薦者には、一般受験者と同様の選考を第1次試験から実施することとし、第1次試験の「受験票」がダウンロード可能となったことを通知する電子メールを6月20日（火）までに送付する。

この場合は、推薦を受けた校種・教科以外も併願により受験することができる。

受験票には、試験日程、試験会場、集合時刻及び持参物等の記載があるため、必ず確認すること。

7 第1次試験免除者の試験日程

（1）個人面接

令和5年6月25日（日）、7月1日（土）、2日（日）のいずれかの1日

(受験票にて、実施日時を指定する。)

(2) 第2次試験

令和5年8月19日(土)、20日(日)の2日間

(一般受験者と同内容の試験を実施する。)

上記の試験のうち、いずれか一つでも受験しなかった場合は、その時点で受験を辞退したものとみなし、令和6年度京都市立学校教員採用選考試験の受験資格を失うものとする。

8 第2次試験合否結果の発表 ※結果発表の時期等については、今後、変更する場合があります。

(1) 大学等への通知

第1次試験免除者の第2次試験の合否結果(合格、不合格)は、令和5年9月下旬に通知する。

※第1次試験免除者が第2次試験を不合格となった場合、令和7年度京都市立学校教員採用選考試験に限り、同一の受験区分のみ受験する場合は、第1次試験を免除します。

(2) 第1次試験免除者への通知

合否に関わらず、令和5年9月下旬に郵送で通知する。

(3) その他

合格者の受験番号を京都市役所公用掲示場に掲示するとともに、京都市教育委員会ホームページでも発表する。また、第2次試験結果通知後、出願区分によっては合格者を追加する場合があります。この場合、令和5年12月31日までに、大学等及び追加合格者にその旨を通知する。

9 採用時期等について

合格者については、令和5年9月下旬に合格通知とともに内定通知書を発送し、令和6年4月1日付けで京都市立学校教員として採用する。

10 大学院進学者及び国際貢献活動派遣者への特例

第2次試験合格者が、合格した校種・教科の専修免許状取得を目指して、大学院へ進学する場合は、最大2年間採用を猶予し、当該専修免許状の取得を条件として、令和7年4月1日付け又は令和8年4月1日付けで採用する。

また、第2次試験合格者が独立行政法人国際協力機構法の規定に基づく青年海外協力隊又は日系社会青年ボランティアの活動に従事する場合は、最大2年間採用を猶予し、令和7年4月1日付け又は令和8年4月1日付けで採用する。

11 提出先及び問い合わせ先

京都市教育委員会事務局教職員人事課

〒604-8161 京都市中京区烏丸通三条下ル饅頭屋町 595-3 (大同生命京都ビル7階)

電話：075-222-3779 FAX：075-222-3759

Eメールアドレス [jinji@edu.city.kyoto.jp](mailto:jinja@edu.city.kyoto.jp)

ホームページ URL <http://www.city.kyoto.lg.jp/kyoiku/>

＜非常災害時等における試験実施の情報は京都市教育委員会ホームページを確認してください。＞